

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果

大阪市立北中島小学校

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における北中島小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年4月から令和7年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・北中島小学校では、5年生59名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査を実施する。

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立北中島小	学校	児童数	59
----------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	14.28	18.68	31.44	37.60	42.38	9.40	150.16	21.96	50.46
女子	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.68	18.58	38.88	35.91	33.34	9.86	143.00	13.03	52.83

結果の概要

体力合計点については、男子女子ともに大阪市・全国平均を上回った。男子は、50m走・ソフトボール以外の種目において大阪市・全国平均を上回った。女子は、反復横とび・20mシャトルラン・50m走・ソフトボール投げにおいて大阪市・全国平均を上回った。男子女子ともに大阪市・全国平均を下回った種目はなかった。また、児童質問紙調査では、「運動やスポーツをすることは好きですか」において肯定的に回答する児童は男子95.9%、女子は93.7%であり男子女子とも大阪市・全国平均よりも高かった。さらに、運動習慣に関しては、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子が12.5%、女子が15.7%であり、女子については、大阪市・全国平均よりも割合が高く課題のある点だと言える。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

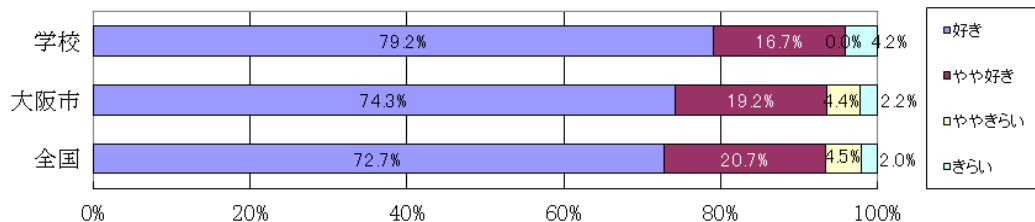
今年度は校舎建て替えに伴う工事がすべて終わり、2学期から運動場が以前のように大きく使える環境になった。中庭もリニューアルし、鉄棒や雲梯、ジャングルジムなど児童が運動に親しむことができる環境になった。休み時間には、広々とした運動場で元気よく身体を動かしたり、遊具で楽しんだりしている児童の姿がよくみられた。また、児童とともに遊びを通じて身体を動かしている教員の姿もあった。体育科の授業においては、児童の運動量を確保し楽しく運動に取り組む授業づくりを行うことができた。こういった環境づくりや日々の実践が児童の体力向上につながったと考える。一方、今後の課題として、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合が女子が高かったことを解決していく必要がある。男子女子に関係なく誰もが運動に親しむことができるように、運動場でのみんな遊びの取組や、学校全体で運動に親しむ機会を設けることなど、運動に触れる経験をより多くしていく。

児童質問紙(男子)

本校の特徴的な結果

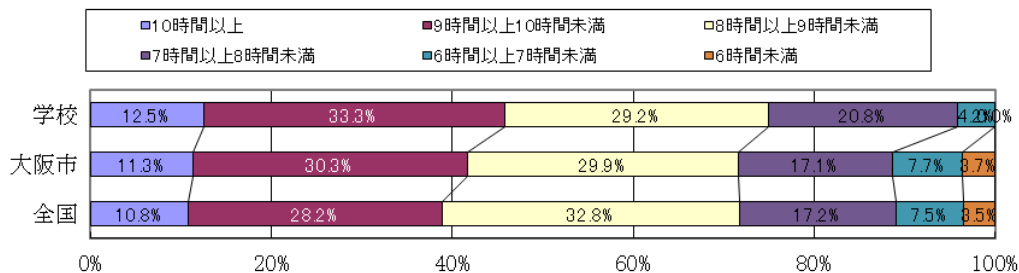
1

運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。



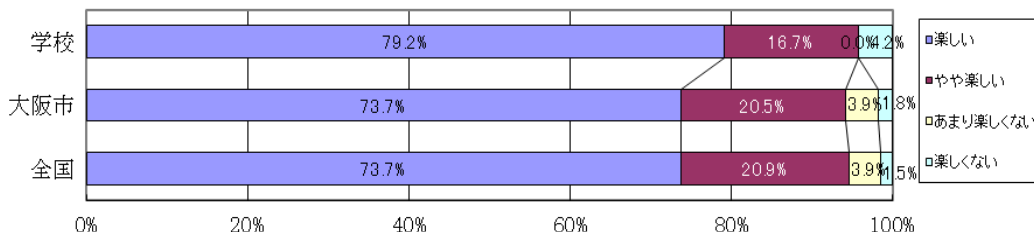
7

毎日どのくらいねていますか。



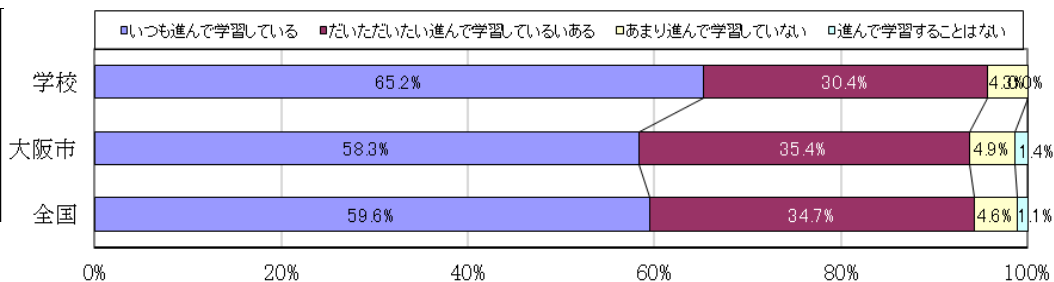
9

体育の授業は楽しいですか。



11

体育の授業では、進んで学習に参加していますか。



成果と課題

どの質問項目においても肯定的な傾向が読み取れる。やはり、運動やスポーツに対して好意的な思いを持つほど、体力向上を図ることができることが分かる。しかし、否定的な意見を持つ児童も数%存在するため、誰一人取り残さないための取組を継続していく必要がある。

今後の取組

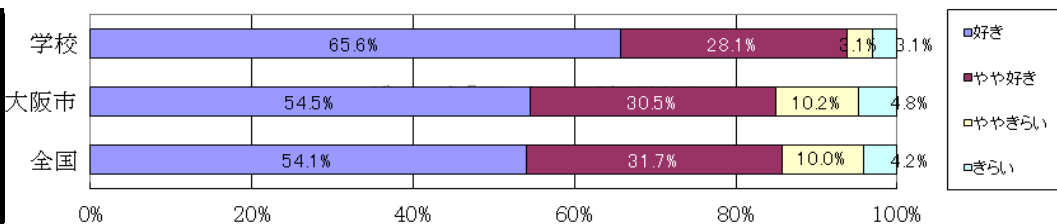
体育の授業をはじめ、児童が運動に親しむための環境づくりを継続して行う。また、睡眠など生活リズムを整える重要性を学校だよりや保健だよりなどを使い、継続して啓発していく。

児童質問紙(女子)

本校の特徴的な結果

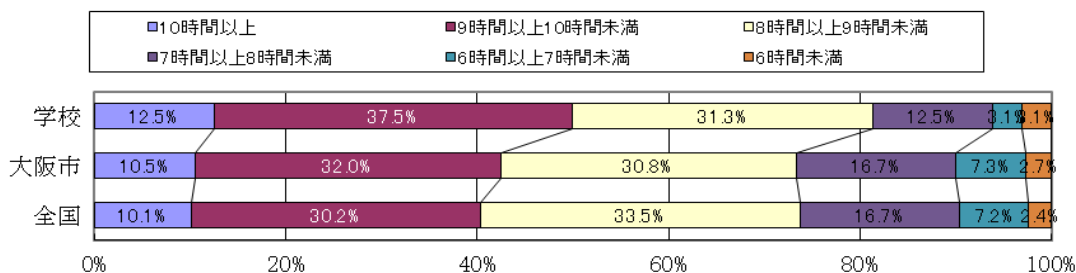
1

運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。



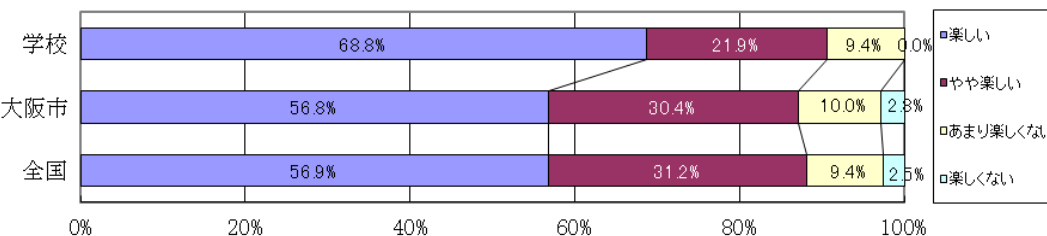
7

毎日どのくらいねていますか。



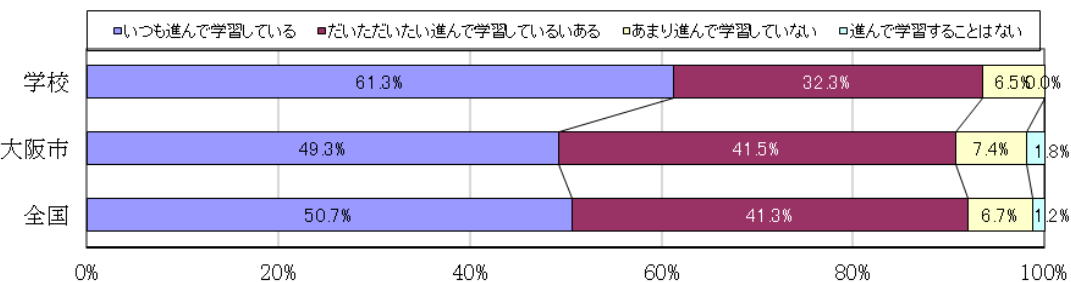
9

体育の授業は楽しいですか。



11

体育の授業では、進んで学習に参加していますか。



成果と課題

どの質問項目も大阪市や全国より肯定的な回答が多かった。これまでの指導やご家庭での安定した生活、地域のみなさまのご協力のたまものであると言える。特に、質問項目1「運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。」では、肯定的な回答が大阪市・全国平均より大きく上回った。しかし、男子と同様、否定的な意見を持つ児童も数%存在するため、誰一人取り残さないための取組を継続していく必要がある。

今後の取組

体育の授業をはじめ、児童が運動に親しむための環境づくりを継続して行う。また、睡眠など生活リズムを整える重要性を学校だよりや保健だよりなどを使い、継続して啓発していく。